

西の風晴々
 十二月廿六日
 〇日昌
 五七
 時四十二
 七

歐北の原野に吹雪を冒し馬蹄の塵の舞ひを過ぎ眺め美しき瑠璃の國を越え十一月十一日瑞典のストックホルムに著せしストックホルムは北バルト海に面しメーラル湖上十數島嶼の上に降り風光頗る佳絶にして實に北方ベニス

に見て人心懇やかに各種の生産を營み居る隣交戰國の人民の羨望の的となれるも無理かならぬ事なり、實に

現今のストックホルムは南露の金持連の避難所の如き感あり恰も夏期に於ける海水浴場の賑鬧するが如く空

の稱に非かず云ふは人口三十四五萬歐洲戰艦以訖は獨逸と露西亞との間に貿易易知と戰艦の發後は獨逸の交通貿易殆ど斷絶したるも聯合國殊に露西亞に對しては同市の特産物たる砂糖糖蜜糖粉等の輸出旺盛を極め又同地の造船工場は何れも廢絶を極め鐵工場の如き晝夜休止の寸暇なきき狀なり是れは當地に本陣を定めたる俄に屹々たるんとす風景の佳麗のみならず市街整然として清潔に雪未だ來らず諸北の山中に來れる旅行者に取りては實にエデンの園もたゞならず感ぜられいよかく暗き北地に在るが如き感ば毛頭も有る事なし歐洲の北西に在りて有る民以來未曾有の大觀を惟事

家と云ふ空家、前主と云ふ前主は東中流以上の露國人家族を以て押逐められ居るも當地に避難し來る程の者は何れも俄中温かき故を以て故國の戰禍は忘れたるもの如く海濱に公園に打ち連れて散歩し喜戯する者甚だ多しされど彼等も戰の日に聯合軍の振はざる面白からる揭示通報を見ては眉間何れも憂の雲の漂はざる者鮮なし此等避難の非常は多く入込みたる日等の短きと暗く少なき事とは樂しましスプリングホールの爲め甚だ惜しむ事に感ず今川林府前通宿の節

米價の前途に付ては到底之れを豫め適確に述ぶる事能はずは勿論にして余は唯既往の経過によらず以て意見を述べれば大正四年度の経過を見るに大正三年度の大蔵作なる日本は勿論我朝鮮に於ても既に見ざる處の大蔵作にして實米の潤餘なる實に意外の事にして大正三年の年末に於ては釜山に於ける米價は其平均七圓九十四錢にして之れを同年十一月の平均相場十四圓八十七錢に比すれば實に六圓九十三錢の安値を現はしたり之れ即ち大蔵作を意味して以て斯くの如き異常なる底落を來し以て驚く

關節の實行と共に又復米價は騰貴せられて五月以降は九圓室に低したり而して大正四年度の米作も時は意見を喩へて前年度に大蔵作收米を見るべく唱へたりしが

▲其豫想に反して收米時に入りて水害及び蟲害等のため減收を呼び遂に輸入當時は益々減收を道たりし其結果にして少しく昂貴の姿を呈したるしが何分前年産米豊富にして如何に減收するも猶ほ得るに至らず別に見るべき升に入りて然らず十一月末より十二

の如き現象は、
▲實に未曾有の事にして如何に大正三年度の實米豊富なるを見るに足るべきものと云へし故に來る大正四年度は尙低価格を見るべきものと信じつゝありし然るに大正四年の一月に至りて其想案が當らずして却つて昂騰を來し八圓九十六錢の平均相場を一月に於て願ひ十二月よりは遂に十圓五十五錢と反比例に昇進を見るに至れり斯く世人の豫想に反し昇進したる原因は決して實米の不足によりて昇進したるに非ずして政府が米價調節を問題に上せたるに外ならず然れ共米價調節が如何なる方法によるかは更に判明せざる前に於て斯く
▲日本の買注文 多きに至
 て茲に十二月は十一圓の米價平均相場に之れ朝鮮米の改良に伴ふ登りの向上と其日本の需用に應ずるの良を進めしむるの結果に外ならずと之れを以て米穀検査の實施によるものに外ならざるものと信ずるは却説大正五年年度は果して如何なるに多大の低落はなきものと信ずるものに於て第一朝鮮米が如くに需要を擴張せられ

五州歳末の財界は全く歳末気分
に陥る所となり市中金融も減切
し初めに比し何等特色を表現
する所なく昨年と見ても數年
來稀に見る市况服盛なるもの
一つあり由來消費地として他
の多くを以てその命脈を保ち
得し公州も金融組合員の金儲

六州貯金會等設立にともなふ、
資本金に充當する金融も見るべし。
命金會の將來銀行爲る現在の
八金融界に一大利路を見出し、
生利清地を得るも數年後に見んか
支店のあると到底六州經濟界
の所なく別働隊れかの方々
商業資金調達を得て興業する
能へたるに起因するも要するに弊
厭なしは否にもよるべし然則
本年年末各商店の買出しは素閑
景況を呈し物資の輸入亦夥多
と太平を慶賀すべく歲末進部に
うる金融既に均等に分配され
ぬの如し高錦工業株式以來公明
來する物資に就ては兩地方力者
運貨の盤下げを希望しつつある
は之が故には物價の低壓を招き
の活潑を來すべし

●燠肉製造試験

平壤畜産組合の
業成績は良好の
半鮮府畜産組合にては豚の飼育
に於けると共に豚肉の利用及び作
材として製菓の試驗をもして昨
年燠肉製造の試みを爲しつつ有
る也昨年よりの繼續事業とし

棧橋工事竣工

(一) 日本教育修養會 平太北道
の教育調查會、學塾の研究修養
的とし研究事項の相互通信及
を共同し管内を數點に分
別支店を創設し巡遊せむが爲
發會館電院に連絡したりた
て大正五年一月四日御用船め
施すことに決定せり

● 運給船舶上陸客 廿四日
入港船九二二等客
(一) 客名 井村次郎三十三才(男)
師田小鶴枝 妻井田次郎 女
大藏主一人、男二人、非上陸客
江崎出六郎、丁次郎、宮田同上
客乗客計七人、貨物三、野馬駒
名(馬)五頭、牛五頭、猪一頭、
廿四日下午に入港船九二二等客
(一) 客名 細越八郎、下川口
富國雄一、市橋由良忠男、猪各
丁一名、伊東兼吉、猪一頭、候乗客

東京證券現物特電	二十四日山梨賣價 前日との比	六九〇〇〇〇
東洋殖産	二十四日山梨賣價 前日との比	一六三〇〇〇
朝鮮銀行	二十四日山梨賣價 前日との比	一四五〇〇〇
朝鮮鐵道	二十四日山梨賣價 前日との比	一四五〇〇〇
東公債直取引特電	二十四日山梨賣價 前日との比	九四〇〇〇〇
九分特別	二十四日山梨賣價 前日との比	八三〇〇
十分特別	二十四日山梨賣價 前日との比	九三〇〇
二面四分	二十四日山梨賣價 前日との比	九三〇〇
二面五分	二十四日山梨賣價 前日との比	九三〇〇
三面五分	二十四日山梨賣價 前日との比	九三〇〇

深川在米特電

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

川現物市場

米	水原大豆	二八
一〇九	小井白米	二八
二四四	金井白米	二八
三九七	順安白米	二八
三八		

昨今相場多ク三四百錢
 昨今相場多ク三四百錢
 然後會の人氣

川期米

昨今相場多ク三四百錢
 然後會の人氣

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

正米目先觀
田中金太夫
二電路長六二八番
一五二四

一月 出帆 三萬五千
 二 月 出帆 三萬五千
 三 月 出帆 三萬五千
 四 月 出帆 三萬五千
 五 月 出帆 三萬五千
 六 月 出帆 三萬五千
 七 月 出帆 三萬五千
 八 月 出帆 三萬五千
 九 月 出帆 三萬五千
 十 月 出帆 三萬五千
 十一 月 出帆 三萬五千
 十二 月 出帆 三萬五千

[illegible]

誤を擇撰の油醬
の唯東關へ給み試
りた冠に國全高造釀
大最は高造釀の大最
品は力買購の大最

[illegible]

損の中年
 油醬クハキ品
 石千二萬六
 りけ基に力買
 證實の越優

[illegible]

座 諸△國行 站

油醬

—C 印 夕ハ

高切以上二百切(大紙函)
五百切以上一千切(板函)
其他切花以上千切中候
其川花町二丁目
高野山微
製造發賣元

廣 告

うなき味噌漬
大好評漢汁持盛進物用最適
生 鰻ハズ大生かき
生 鰻中生かき

下總國野田町
茂木七郎右衛門
京城特約店
明治一丁目
野商
電話二五三番

町田野國總下
造釀門衛右郎七木茂
店約特城京
目丁一町治明
店商野牧
番三五二話電

損の中年はる誤を擇撰の油醬
油醬クハキ品絶の一唯東關へ給み試
石千二萬六額年りた冠に國全高造釀
りけ基に力買購の大最は高造釀の大最
證實の越優質品は力買購の大最

巴爾幹戰の既

嚴原より

▽ヴァルナ方面の守備も亦
甚手薄かりしを思ふ、且ヴァルナ

[illegible]

断せば、とるこ土耳其は自らなうちう囊中の鼠をねすみ捕とるべし、
更に露軍ろぐん聯合軍の有力をいうりよく減へすべし、

は、敢て今回の戦況に依て、遽に出現せし獨逸の作戰方法と云はんよりも、之れ牽り獨逸平生よりの伯林、君府波斯は結合すべき大理想と、大野心の現實なりと見るを好むと思へ、而も此の時にて、來發の聯合軍は、並

なるに從て、羅、希臘國の向背も一定し、協商側に參加するや必せり、然れども唯唯らくは露軍出兵の恐れたる事にして、其の始め未だ

△塞耳維の戦況 酬なるの

のであります。石劍も多く出ます。此の事實から考へますと對馬の古民族は朝鮮と同じ、古の存在する古墳(三國時代)は、

義△
會△
觀△
音△

野田行儀は出るが、ついでに「大ニ」
 に退いて軍容を保ちつゝあるのみ、
 サロニカにして撤退の止なきに至ら
 ば、最早此の方面に於ける、聯合軍
 が萬事休するの秋にして、
 平家の末
 何省の正副参政官も無用の長物
 参事局 一記者
 ▲豫算各分科の質問が大粒から一
 直下、小粒となつて参政官の扱はれ
 さうな手順なのがなくなつたので▲
 加減にして聞き給へ』と半戲を
 する▲守屋此防君が一小油
 分聞かされた之れまでは君の
 る、守屋君の打て置つた今期證
 沈黙振り多分は彼の醜舌も二十

てゐるのは大笑い ▲第四分科會には

此方面戰況の關係する處多分に最も、
初英國國の想立したる、君府攻撃の作
戦計畫は、所謂無益の戦争に終りし
の感なくんば非ざる也、然れども此
の秋に於て、更に巴爾幹戰に一變、
蝸牛の角程抵抗力を出して噛み合
つた先を逃がして楊枝を抑り廻す。對
手たる小刀相應楊枝相應と云ふも
なり、
「馬政局」に電話が七し
「女入禁制の高野山に妻帯を
犯したたり一宗の當長が女子を犯した
打と風俗亂靡の事柄を列聖
△山根正次君も「學生が忌は

た末は互に苦笑▲第六分科會で小
仁郎君が身病相懸北海道通を振り

査として其の出師を傳へず、獨塊土
 形勢に照じて、彼所を顧かし一方
 鐵道完備も古川副都知事も思は
 ず愛奴郡の地名を連發すると添田
 聲聞を出してグツと反り身▲長
 前を移轉問題に關する一派の喧

朝鮮の先史民族

北方の先史民族

鮮は靺鞨北道は多く打製石器を
にせり、勿論純然たる磨製時代の
跡をも交へるに依り、此地方は我
邦に於てアイヌ及びギリヤークの
人種が棲息するが如く、多少進歩
度を異にし、二民族が共存せしか
は磨石器時代のものは彼等の進歩
て其域に達せりか、又は此地より
彼に進みしものが優等民族に追は
れ、然れども
歴史は推て授けず
彼等の朝鮮に入りし時代の其民族の
窟外に進歩し居る形跡あり、又
彼等の一派が太古朝鮮に形跡あり
と論議は嘗てなし、反て之を遺物の石
器使用は殷末
周初以來風に世に傳
へ、後世六朝時代に續きし有様
れば、其永野蠻の境界に居つて
も漸次進歩し來しは確かなり、去

て再び此地に歸來せしむる其技術は
可く進歩せしものぞ、其見方は種々
の可しと雖も何れにかよ成威江原
二道間には他山峯、絶たの類も
但に石壁に民族に屬する
の觀あり、
中城基岩湛造の絶たの女
にて是處火を求むる爲め穴窟の已
が澤を辿りて對岸に往來せりこの
説あり、是等は假りに存す可から
ざるも、何や前記書の述に
故あるが如く、又前述正確を期し
て大谷は偶然の結果として遺
れたる徳義總合して其一分は政
治が北城の説に入りしと見る事は政
治が北城の説にはあらざる可見勿論
未だ北城の地を踏まず、又其遺蹟
の現狀を見ず唯だ僅に遺物と傳説
によりて判斷せし過ぎざれば白
己に於ては斷難推察の感なき能はざ
ると同時に其説の未だ徹底せざる
所あるは又豫め讀者の寛恕を請
ふを得ざるを得ず

併し日本の寛東民族に就ては一部は
八士間に往還説あり、并は彼等が

の重なり、若くは相互接近せるに
思ふべきなるも、其打製品は廢製品
形式に上開あり、故に此分は他
國の民族と見立難なり、然れば右
果して何なる種族に屬するやと
ふに、予は古畫の記載と現在の狀
鑑みて、疑く華族の一派
と考へて居るなり、并は華族
にあらざるやと考へたるも、古
代に於ては北土南土を人せしこも古
方より南進して復た北退せりとの
あるが、朝鮮の分は前同古遼の如
く各道に墳墓あり、其物高大にし
一所永住の計を圖りしに似たれば
右の強壓を受けざる限りは舊地に
居ることを可からず、勿論絶強に
事なしと云ふ可からざるも、大
體は前條の如しと見て不可ならん
と打聽、廢製品の製造法並に

其の證明する所にして、契中女真族の
 部は今も尚ほ住するものありと
 云ふ。勿論歴史に據て考ふれば肅慎
 は滿洲の最北に居り、其南方には沃
 居りしが、此沃沮は腹は半島内を
 流して三國の患害を爲せしことは古
 來證明上、其餘餘りあれば、或は彼

する點は猶今後の研究を要す可し

日報歌壇

○水夫となりて 繁川にて 新沼 櫻樹
 水夫となり海にも馴れて朝日拜
 氣は清うけれど濁れどされど
 遊蕩の灯籠一つ寒空に浮ゆるが
 し能く取てあれば

に、現内閣支持の中心力に熊本縣出身の有力量あり斯の内閣が其立場に拘り、福岡市を可として本案を提出したではないか」と巧妙に皮肉り、無關係の立場にあるだけ言ふ所も公正で原案に賛成する。△佐賀縣選出の委員増岡次郎君は佐賀市が過當に

放埒は三十路を過ぎて重婚の婦妻と呼び心寂びしも、水倉船のり海航なれば縮帆して面白ろし君思ひつゝ、鯉釣りし漁場は荒れて我が船はにやれつゝ群山に行つ雪降れば水夫等集ひて莫過當年

船だてて原案に反對する熊木縣選出
 の原田十衛君、私も少し我田引水で
 すが……と熊木市通説を云ひた
 さうにして原案に反對する田舎議員
 が我田引水の水喧嘩、鑄鐵持つ手並
 の程と殊勝に見える△討論終結と
 なり採決の結果七名に對する八名の
 北風の強く吹く夜を老水夫に聞
 前の群山を隔り、
 漂泊や日病むと聞く冬の夕また
 けとてか小波ゆする。
 阿波國河野 芳 子
 旅日記繰ればば、押し押花の色
 せたれど思世の湧く

多數にて原案に否決される一たり
 善政の神なる美名を顧も得た尾崎
 正村の手紙の百箇も田舎讀みの銅鑄
 時に顧はなかつたは氣の毒(一夜杞)
 も云はぬざびしき性ぞわれな
 れ捨てたる戀を見かへりはせず
 われを愛づ人は多しとひそやか
 笑めど淋しく涙ぐまろゝ

高
等
既
製
オトコ
ー
ン
バ
ビ
ト
破
格
即
賣

正札より五歩引景品付

京城南大門通

丁子屋洋服店

●家庭の贈答品として最適

日本女性の傑物平政子の愛讀書
大正新時代の婦人必讀の良典籍

名假
貞觀政要

卷首鎌倉^{時代}古鈔卷子本^{真觀}寫眞石版插入^{本文四號活字}
 政要^{是唐の太宗帝が大は治國平天下より小は修身齊家の道に至る迄群臣と問答したる事どもを四}

十の部門に分て編輯したるものにして、我國歴代の聖天子の御訓諭あらせられたるは固より先帝陛下に於かせられては故元田侍講の進諫を開召され又た昭憲皇太后陛下にも同じく本書の蒙養を受けさせられ最近今上陛下には一週一回小牧昌高氏より大々たる進諫の開召し給へり

此書が日本で最も傑出したる政治小説といふ人は何人も異論なき所なり我々が讀むべき體裁なる讀者の前に而も女性自身として本書を愛重したる心掛は流石な將軍たるに堪ゆ事にて其の常例からける修養の程も思ひ造られて威服の外ありし此の聖名親政要は平政子が自ら譚議に便せんが爲めの博士菅原長舟に託して和譯せしめたる物にして難解の原文は何人にも讀める様に書きならしめ後世知識人の著としたる直譯體の「歐化」では非常相違ある假令其意要は平政子がある條に過ぎぬのみならず予なく他に讀まじき可く解釋せたる程も確かに現代婦人に之れより人の妻となり人の母となす可き人或は己に入りの妻たり入りに對して切實譚議を勧誘するの價値十分なるを感ず疑はず此書の内容は固より國家治略の道に就いて鑑戒とすべき點夥ならざるも又た修身齊家の方に就いて裨益する所多きは云ふを得たらず太正の今日に於て婦人在て一通り天下國々の事を観ても婦人内助の功の如何に大なるを知るを得べく吾人は莫く夫も大正に向つて諷言を呈したる事あるを見ても婦人内助の功の如何に大なるを知るを得べく吾人は莫く夫も大正新時代の婦人が此書を愛讀して平常の修養に資せられんことを希望して已をざらん也

京都太平町一丁目
振替京城三〇番
大取次所

京城日報社代理部

トかる。花かる。ト
ラ。花かる。ン
ン。花かる。プ
プ。花かる。プ

最新年號雜誌
最新年號雜誌
最新年號雜誌

大正琴。大和琴。
大正琴。大和琴。
大正琴。大和琴。

西洋樂器
西洋樂器
西洋樂器

クリスマス用
クリスマス用
クリスマス用

大販賣

日韓書房

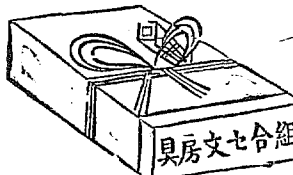
振替 一一五番

京城電話 二二七

須藤南翠作

『やあ姑らく待せられ』と、拜郷久盈

「後藤又兵衛とやらに欺かれた事
いかに無念、口惜しう存する。左
りながら、夜陰の城放し勝利を得た
例はおざらぬ。箇やうの事より敗軍
の基ともなれば、今限以來の利運は
却つて徳衛と相成申さう。今姑ら
く怒りを抑へて、時刻を延ぎせられ」
は、夜陰を待つて開戦しようとい



京城本町
シノサキ本店

「誰かある、はや参れ！」
盛政は續いて人を呼んだ。今井
「御前に」
次郎走り出て、
「彼處の山に夥多し松明が見ゆ
ば、敵の加勢何萬騎か、仔細に斥
責いて來う」
心得ました」
是れも倉皇として駆け出した。
まもなく對馬守に追ひ着いて、疊を
なぐり、船倉階に取り上り、こよ
間近く見渡すと、東南の山々谷々
起火ならぬ處もなく、蝶を吹き
を作つて、蟬々として長蛇の陣を
してゐる。木末邊には人馬の馳せ
ぶ物音、手に取るやうに聞えて、
くさくさ、其勢五萬には下るまいと
はれた。
是れまで節と見極めた兩人は、
きき驚き退つて、委細を復命するこ
とに決し、
盛政は切齒を折て口惜がした。

牌賞金高最

大興記念全國食料品
共進會に於て
壹等金賞牌を受領せり

三人夢味贈

赤さに感せず體量を増
す血色を好くし記憶を
増し元氣盛になります

遠東藤吉廣商
店番九八〇一

「此れに居りまする」
心を得ぬあの間の聲は、うろたへた。
「ハツ」と聲へて立ち出た。

[illegible]

▲新少女(青年號) 新平國薩家族變六は竹々
夢二、草の美醜非びなきもの例に依り其の伸
夢二氏、樂天氏のものゝ出あり、
には河井醉名氏の「日本戀」や、典謝野島子氏
の「蜀土」等、新泰少女雜誌中の自叙なり(重
京朝刊々谷上り國數婦人の友社定似十錢)

清き處女の友情

ニキビが取て急に美人となる
 オヤ、驚きました手、アナタは今
 と同様にニキビでお困りでしたか
 狼跡もな／＼キレイに取れて色が
 白くホントに美人にお成ですと云
 駄下りしたのですが「ハイ」實は
 貴業士金澤廣氏のラスター



ナニ成りま
 した元來
 面ニキビ
 吹出物オ
 キを主じ

服薬が大
 良いと聞
 早速用い
 したらコ
 ナニ成り
 した元來
 面ニキビ
 吹出物オ
 キを主じ

他、下ス黒ク、硬キ斑點のある等は、体内に
 腎臓の變化より生ずる一種のトキシ
 ンに原因するものなれば、内服薬にて
 治療するを正則とす。ラスターは此
 の皮膚病に良好なる内服薬にして、
 時に腎臓を癒へ、射撃を健全とす。注
 意三錢、藥十枚封入して、東京下谷
 根根町百十一番地、金澤山、雪へ中
 込を時は直に送藥すべし

監製 蒙家處分論 日本大非包高價
 宣統二年代總理 督辦 宣統三年
 宣統二年代總理 督辦 宣統三年

新酒賣出
一升 一金拾八錢
古酒 一金參拾錢
各藥迄の運賣當店にて負擔可仕候
但樽代一斗入六十錢。二斗入及四
斗五斗入は一圓申受候
大邱北旭町
齋藤酒店
電話三三九番

大正五年
國民日記

A black and white illustration of a woman in a kimono reading a book. To her right is a large chrysanthemum plant. The background is dark with the title '國民日記' (National Diary) and the date '大正五年' (Taisho 5) written vertically.

「我等は日本國民である」と云ふ自覺は我等が無二の光榮であり誇りであります——此光榮と誇りとを毎日自覺して國民としての責任を果たさしめんが爲に「國民日記」と云ふものが出来ました——「國民日記」の優美なる體裁は世界に卓越せる我日本の自然の如く——堅牢無比なる其製本は天下無敵の大和魂の如く——其充實せる内容が古今東西の智識を網羅して餘蘊なきは恰も日本の文明が世界のあらゆる文化の粹を抜きたるが如し——「國民日記」は從來有り觸れた日記のやうなものではありません——眞に國民の爲に作られた國民の日記であります

定價 金四十五錢 郵税 金八錢

取次所 京城太平通一丁目 警京城三〇番 京城日報社代理部

銚子港 田中玄蕃 釀造

田
仁多醬油

代理店 京城明治町一丁目
櫻正宗 發賣元
山邑京城支店

金牌
受領
上酒壹升
に四拾錢
付
京坡欄井町一丁目
電話百七十七番
御數は持に
初引可致候

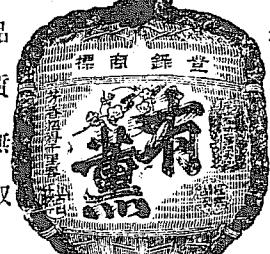
酒造
美釀
造元
中井
酒造
店

淋酒
燒酎

人並り
山岸
洋藥
賣藥
醫療及試驗器械
總切町 伊達政實に市内配達及び
地方通信販賣致居候
東京町百部使局前
山岸天祐堂 藥品部
電話 二二六
番地 番地
山岸天祐堂 藥品部
番地 番地

內科
小兒科
入院隨意
院長 中島貞信
電話三七八番

酒清良醇双無



造吟社會名合藤首
 ハービンリキ 賣小即米白精
 萬甲船 油醬 ハービロボツサ
 種各 ^{トシ}ナイサ引布矢三 種各分
 元賣發鮮朝
 店支城京藤首

入院隨意
酒井婦人病院
京城永樂町二丁目(酒井陳列館裏通)
電話二六〇〇